

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	岩手県	代表者名	達増拓也		
担当者部署	政策企画部	連絡先電話番号	019-623-5283		
担当者役職	主査	担当者氏名	須川 治	連絡先E-mail	
住所	020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	河井 孝仁
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	県及び市町村の職員に対し、行政広報における行動変容を実現するメディア活用戦略について、先進事例に触れつつ講演をいただいたこと。 また、講演の内容に関する参加者アンケートの結果も好評であったこと。
アドバイザーへの要望事項	特になし。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（応募依頼より）	支援内容（応募依頼より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和5年8月22日	講演	有	令和5年8月1日	815
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和5年9月12日	講演	9時50分	12時00分	5
				活動時間（分）	125

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
------	--------------------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

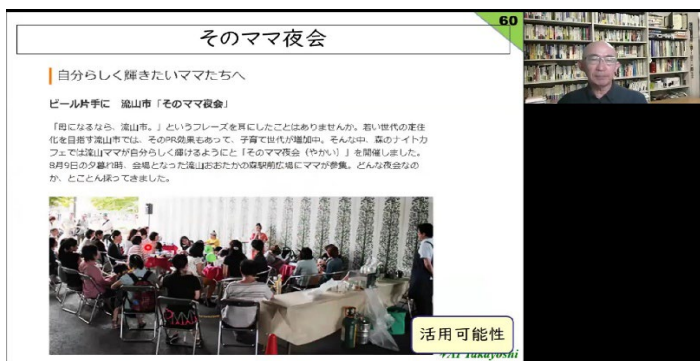
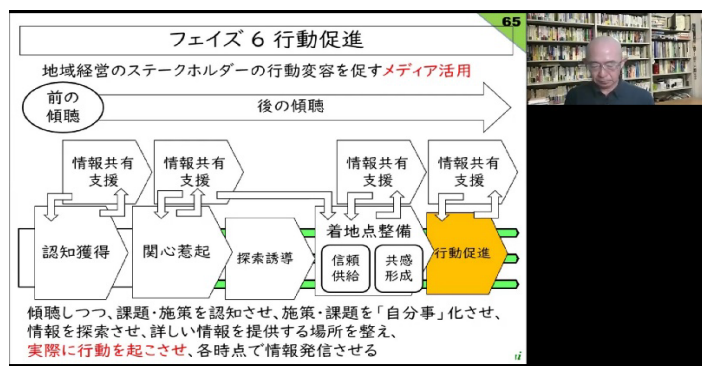
5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	県（21人）及び市町村（31人）の広報担当職員	52人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	広報分野に係る情報化に関する研修として、ウェブアクセシビリティ対策、SNSによる情報発信等に関する研修に取り組んでいる。 岩手県庁では令和4年4月現在、119のSNSのアカウントが各部局により運営されているが、フォロワー数等が1万人を超えるアカウントは11に留まっている。今後、SNSを活用した情報発信の機会が増えることが想定されることから、行政広報におけるSNSをはじめとしたメディア活用戦略について学ぶことで、職員の情報発信力を向上する必要がある。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	あらゆる分野でDXの推進の必要性が言われている昨今の状況を踏まえ、行政の広報分野におけるSNSの活用事例、デジタル化推進に係る最近のトピック（先進事例）等を織り交ぜつつ、デジタル技術を適切に活用できる広報人材の育成を行うもの。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	県及び市町村の広報担当職員に対し、広報の基礎知識（メディアの分類、留意事項等）、行政広報における行動変容を実現するメディア活用戦略の概要及び他自治体の先進事例について講演をいただいた。	

支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	住民の行動変容を実現するメディア活用戦略や行政広報の実施、分析に必要な知識を習得できた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他 住民の行動変容を実現するメディア活用戦略や行政広報の実施、分析に必要な知識を習得できた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 回答者の概ね8割から「(よく)理解できた」、「(直ちに)活用できる」との回答があり、また9割以上から「(非常に)有益だった」との回答があったことから、所期の目的は達成できたと考える。また、講師についても9割以上から「(非常に)良かった」との回答があった。(集計結果は別添のとおり。)	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	⑤その他
事業の最終的な目指す姿	県及び市町村等の広報担当職員に対し、SNSの効果的な活用、デジタル化・DXの必要性・重要性や取組事例等に係る講演をいただき、デジタル技術を適切に活用できる広報人材の育成を行うもの。	

なお、〈その他〉を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



	ブレイクメディアとして機能するセグメント	ブルメディアとして機能するセグメント	使いやすい/役所	シェアの容易性
広報OO	ほとんどの地域内住民	行政サービスに関心の高い一部市民には登録以外にアルとして機能	認知獲得	△
市民権利機	転入者及び60歳以上住民の一部	転入者及び60歳以上住民	信頼供給	×
記者受け込み	記者クラブ所属報道機関	×	認知獲得	×
公式ウェブサイト	熱心な広報モニター	Web環境のある者すべて	信頼供給	○
同報無線	聞き取り可能な地域内住民	×	認知獲得	×
公式Twitter	地域内住民を中心とした2000人程度のフォロワー	用意したTwitterと別のサイトへのアクセス	認知獲得	○
公式LINEアカウント	地域内の住民を中心とした500人程度のフォロワー	×	関心惹起	○
公式Instagram	地域内(若年住民中心)2500人程度/地域外居住者100人程度のフォロワー	「#OO市」による検索者	関心惹起 共感形成	○
公式YouTube	チャンネル登録者150人	Web環境のある者すべて	共感形成	○
非常用ポスター	住民異動・年金福祉等手続き者中心	×	認知獲得 共感形成	△(QRコード)